

カムチャッカ半島沖地震による津波③

■残された堆積物等から考察する津波の様子 外洋に面した砂浜



(Fig.1 段差下の堆積物)

7月30日8時24分に発生したカムチャッカ半島沖の地震により、宮城県にも津波が到達した。津波注意報が31日16:30に解除されたため、同日17:30頃から蒲生干潟で津波の痕跡を観察した。

Fig.1は七北田川北の砂浜である。段差があり堆積物は段差の上までは到達していない。Fig.2は段差の上部であるが、堆積物は見られない。

津波の最高波は0.9mであり、段差の上部には達しなかったと考えられる。(Fig.2 堆積物のない段差上部)
そのため内側にある潟湖が受ける影響は少なく、導流堤の水門を経由して海水が流入した程度と思われる(レポートNo450参照)。

